

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町の個人住宅建設などの小規模開発に伴う、記録保存のための町内遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国（1,990,000円）、県（995,000円）の補助金を受け、平成3年4月9日から平成4年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会
教育長	小林茂吉
社会教育課長	吉田和子
町史・文化財係長	岩崎保夫
町史・文化財係	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
発掘調査担当者	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
4. 本書の執筆は調査担当者があたり、文末に記した。
遺構図版作成は小林登喜江、石器実測図版作成は鍋島直久、土器拓影図作成には整理作業参加者全員の協力を得た。また、本書の編集・挿図の作成については今井堯氏の絶大な援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏、機関により御指導、ご協力を賜った。
浅野晴樹、荒井幹夫、今井堯、内田賢司、加藤秀之、神木繁嘉、駒井和久、桜井信枝、佐藤正志、笹森健一、田代治、谷井彪、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、三上七五郎、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治（敬称略）
埼玉県教育局指導部文化財保護課、大井町大井・苗間第一土地区画整理組合、亀久保特定土地区画整理組合、大井町遺跡調査会、大井町立郷土資料館。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。明記して謝意を表したい。
〈発掘調査参加者〉（敬称略）
会沢泉、浅野昭夫、新井和枝、飯塚泰子、石川与一、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大曾根キク子、遠田つる、笠原英子、金子君子、神木光治、小林こずい、小山エミ子、佐久間ひろ子、佐藤至一、佐藤智子、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木健蔵、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、細谷清作、山内栄美子、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。
〈整理作業参加者〉（敬称略）
石垣ゆき子、須藤さち子、柚木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、中野和子。

凡 例

1. 本書の図版の縮尺は、住居・土坑 $\frac{1}{60}$ ・炉 $\frac{1}{30}$ ・石器実測図 $\frac{1}{4}$ ・土器拓影図 $\frac{1}{3}$ とした。
2. 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。
3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。
小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂0.2mm以下。
4. 土器図の断面図の表図は、「網目」が繊維含有、「黒丸」が雲母末を含有する縄文土器を表している。

V 中沢前遺跡

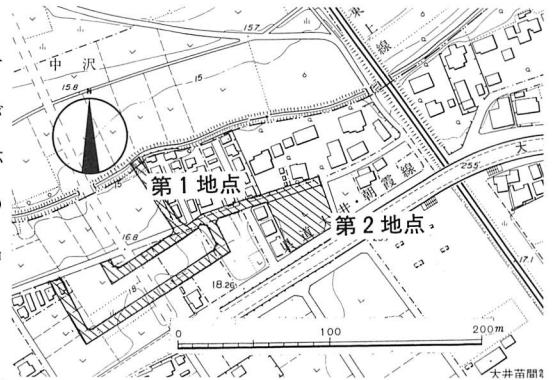
V-1 遺跡の立地と概要

中沢前遺跡は、富士見市との境を東流するさかい川の南側に立地する縄文時代の遺跡で、下流には縄文時代の遺跡である苗間東久保遺跡がある。さかい川をはさんだ富士見市の中沢遺跡では縄文時代中期後半及び、奈良・平安時代の集落があり、また、縄文時代前期の住居も検出している。

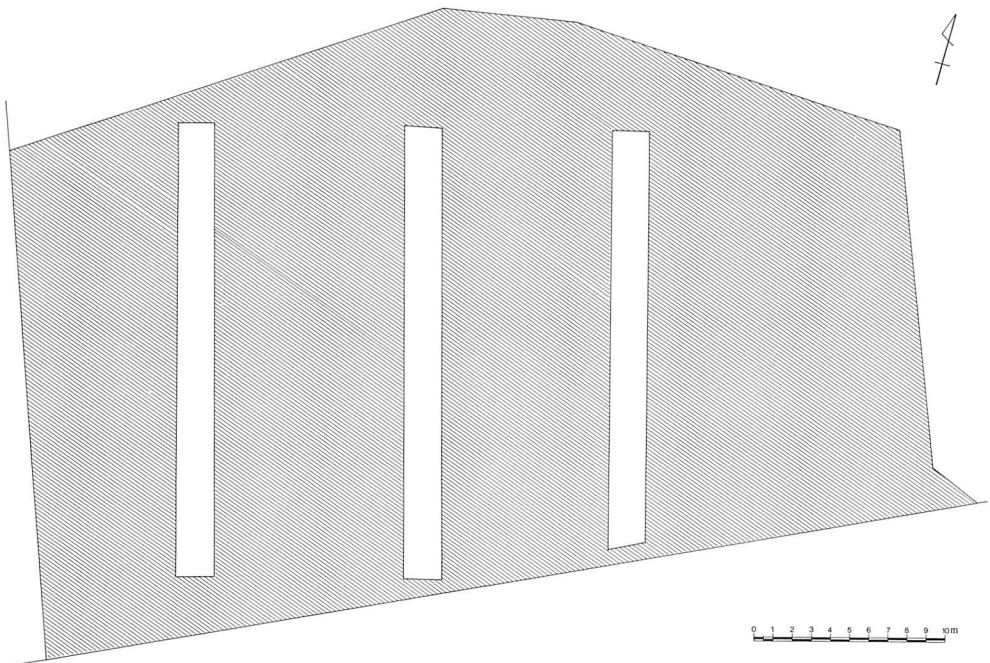
中沢前遺跡第2地点・調査の経過と概要

1991年12月21日、現状の畑地に個人住宅建設の申請があった。調査区は遺跡の南側にあり、さかい川からは奥地にあたる。また過去の調査(第1地点)では縄文前期のピット・土坑が散在していただけであった。そこで遺跡の範囲確認と遺構の種類を確認するため試掘調査を行う事とした。1991年3月14日、調査区に南北方向のトレンチを3本設定し、表土はぎを人力により行い、遺構確認を行なった。精査をした結果は、表土中から縄文前期の土器片を含む少量の土器片が出土したものの、耕作が深く、確認面が脆い上、遺構覆土らしき土も散っていなかったため、遺構が存在していないと判断し、3月18日までに、実測及び写真撮影を行ない、調査を終了した。

(高崎直成)

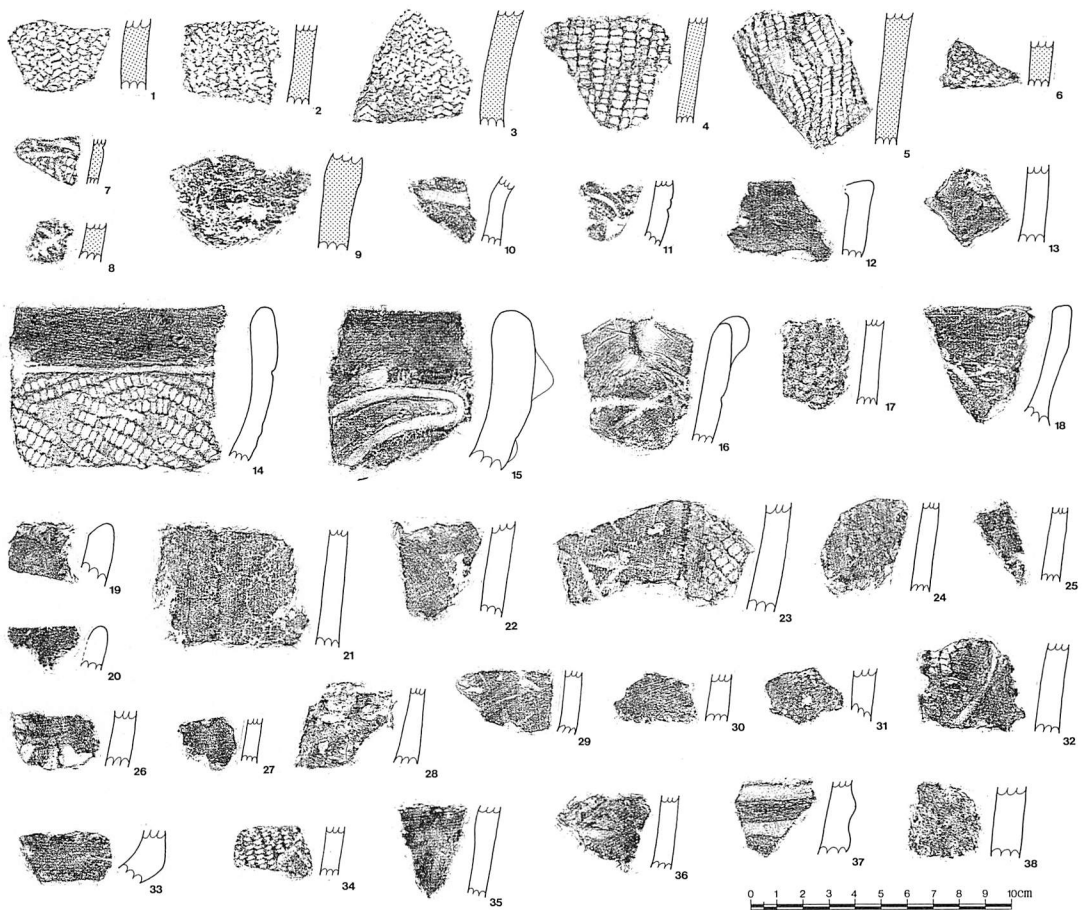


第29図 中沢前遺跡の地形と調査区(1/5000)



第30図 中沢前遺跡第2地点試掘区域図(1/400)

(2) 遺物外土器



第31図 中沢前遺跡第2地点試掘出土土器 (1/3)

遺構外出土土器 (第31図)

1～3は、底部から単純に開く深鉢形土器の胴部片で、密な組紐文を施している。ともに胎土には多量の植物繊維を含み、裏面は横ナデ調整が行われている。1は明褐色、2と3は暗褐色を呈し同一個体と思われる。1～3は関山式に比定できる。4は単節縄文で4～9も胎土にかなりの植物繊維を含んでいる。9は繊維束圧痕をもち、裏面にも指頭圧痕がある。11にはループ状回転文の圧痕が見える。14は無文口縁で、胴部の地文は多方向縄文である。15は無文口唇下の口縁部文様に区画沿いに沈線をめぐらす。14・15は加曽利E期後半のもの。16は小突起をもつ口縁部片で突起下方に押引文をほどこしている。中期の胴部破片の多くは磨滅が著しい。23は地文の縄文間をひろく磨消して懸垂文をつくる。32は弧状沈線の区画内を広くすり消しており加曽利EⅢ期に比定できる。33は深鉢の底部片である。

中沢前遺跡第2地点では、関山式など縄文前期の遺物が多いことが注目される。

中沢前遺跡



調査前全景



トレンチ全景

浄禅寺遺跡第5・第6地点



調査区全景



調査風景



トレンチ全景

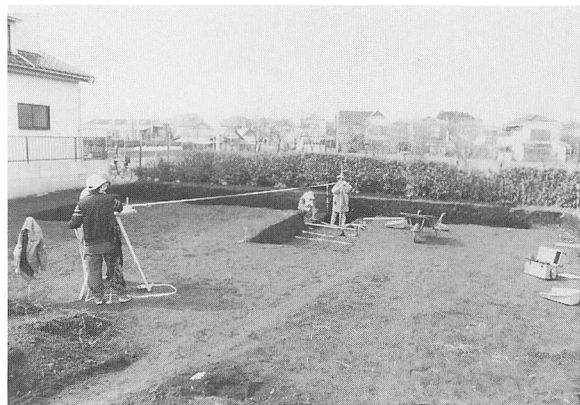


第5地点 土坑

苗間東久保第17地点



調査前風景



調査風景